

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「Shine かがやこう! Rainbow にじいろのえがお Nexus つながる白根」
 ○自ら学び、様々な表現活動を通して考えを深めようとする力を育てます。(知)
 ○自分のよさを発揮し、他の違いを認め合いながらともに活動できる心を育てます。(徳)
 ○自分や他の生命と体を大切に、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体)
 ○自分を見つめ、仲間や地域社会とのつながりを大切にしながら、ともに生きようとする心を育てます。(公・開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力

<自分づくりに関する力>
 <言語能力>

他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 意思決定する力
 伝える内容を明確にする力 互いの考えの違いへの気付き

中期取組目標

○教職員、保護者、地域が三位一体となり、子ども一人一人が自分のよさを発揮し、互いに認め合える学校を目指します。
 ・1年目は、一人一人の子どもが自分自身を見つめ、自分のよさを安心して出せる場づくりに努めます。
 ・2年目は、お互いが一人一人のよさを認め合い、自分の考えを伝え合える力を育てます。
 ・3年目は、伝え合うことで自分の考えを深め、何事にも自分から積極的に関わろうとしていく子の育成に努めます。
 ・3年間を通して、教職員、保護者、地域が協力し、子ども一人一人が自己有用感を持ち、楽しく学校生活が送れるようにします。

学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|----------|--|
| 生きてはたらく知 | ①単元計画を工夫し、日常生活や他教科と関連させることで、自ら課題を発見し解決しようとする力を育てる。②ICTを有効に活用し、子どもたちが自分の考えをもつ、広げる、整理する、まとめることができるようにする。また、ペアやグループ活動では、必要感をもって学び合いができるようにする。 |
| 担当 | 研究部 |

学力向上に関わる本校の状況

令和4年4月に行われた横浜市学力・学習状況調査では、学力、学習意識、生活意識全てにおいて学年によってばらつきが見られる。
 学力は市の平均前後の学年が多く、令和3年度と比べてみると、学力が市の平均に近づいたり越えたりと伸びが見られる。4教科とも、スモールステップで学習に取り組んだ学年の定着率が高い結果が得られるので、他学年にも広めていく。学習意識と生活意識は、令和3年度では中学年から高学年になるほど低下している傾向が見られた。この背景には、令和2年からの新型コロナウイルスの拡大によって、学校行事や学習の制限があったことにより、高学年の活躍の場が減ってしまったことも一因と考えられる。令和4年度も依然として学年が上がるごとに学習意識は低下しているものの、教科によってばらつきが見られるようになってきた。外国語では令和4年度より全学年を外国語担当が行うことで質の高い授業が展開され、学習意識も高まっている。また、高学年の理科を専科が受け持つようになった事で、理科の学習意識も高まっている。重点研で2年間算数の研究を進めてきた成果で、全学年、算数の学力の高まりが見られる。

今年度の目標

子どもが考えたい授業づくり

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 単元計画を工夫し、日常生活や他教科と関連させ、自ら課題を発見できるような授業づくりに取り組む。 朝学習の一層の充実を図る。各学年Aドリルを使用する日を決め、計画的に取り組む。週に一度程度、漢字小テストを行うなどして定着を図る。 年度初めの4月に、2年生以上は前学年の理解度を確認できる場を設け、自らのつまづきを意識できるようにする。 2年生以上は、6月に計算や漢字のまとめテストに取り組み、その結果を、夏休み前の個人面談にも活用し、個々の夏休みの学習への取り組みを意識できるようにする。 1年生は夏休み明けにひらがなのテストを行うことを予告し、夏休みの学習に生かす。 どの子も楽しく学習できるように教材や授業を工夫するとともに、ペアやグループでの学習を意識的に取り入れ、学習意欲の向上や学び合いの充実を図る。 日頃の授業の様子から、学習につまずいている児童が見受けられるので、Aドリルの活用や特別支援教育を含めた、個に応じた支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の導入場面では、課題解決に向けて意欲が高まる教材を工夫する。また、答えを出すまでのプロセスを大切に授業をしていくことで、知識や技能の定着だけでなく、思考力、判断力、表現力の育成を図る。日常生活を通して楽しみながら学習できるよう支援し、学習したことを、日々の生活の中で生かすことができるようにする。 自分の考えを説明したり他者の考えを理解できるように、言語化したり視覚化したりするなどの支援をする。 朝学習の一層の充実を図る。各学年Aドリルを使用する日を決め、計画的に取り組む。週に一度程度、漢字小テストを行うなどして定着を図る。 個人面談では、テストの結果や習熟状況を保護者と共有し、今後の学習に生かす。 年度末に向けて、40回分あるはまっ子デジタル学習ドリルに積極的に取り組む。当該学年で習った算数、漢字、ひらがな、カタカナの総復習を行い、定着を図る。 引き続きペアやグループでの学習を意識的に取り入れるとともに、Aドリルを活用し、学習の定着を図る。 |

豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|--|
| 豊かな心 | ①たてわり活動では、行事のときだけでなく、互いを知ったり感謝を伝えたりする機会をもつことでさらに充実させ、自己有用感ももてるようにする。②自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする活動を充実させる。また、多様な考えを寛容に受け止める雰囲気を作っていく。 |
| 担当 | 研究部 |

豊かな心に関わる本校の状況

本校の児童は、比較的落ち着いた学校生活を送っている。学習においても、決められたことは最後まで取り組もうと努力することができる。また、家庭や地域からの協力も得られ、様々な活動を通して、自分のよさを感じたり、学習にいかしていこうとする気持ちももっている。他者との関わりでは、相手の気持ちを考えて行動していくことができる児童がいる反面、まだまだ相手を意識できずにいる児童も多い。

今年度の目標

一人ひとりの子どもが、安心して学校生活を送れるように、豊かな心を育む場を大切にすること。

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 全教育活動を通して道徳教育の充実を図る。 たてわり活動の充実を図る。たてわり班活動では、全校遠足などを通して異学年同士の思いやりの心や協力する心を育てる。 学年に応じた話し合い活動を進め、協力して取り組むことができるようにする。 児童福祉委員会を中心に、あいさつ運動を継続的な活動にする。 たてわりのペア学年との関わりを充実させることで、自己有用感ももてるようにする。 話の聞き方も相手を思いやることに繋がるため、話の聞く姿勢を大切にしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 各教科で考えを伝え合う活動を充実させる。自分の考えを伝える場面を増やすとともに、互いの考えを聞くことで、いろいろな考え方があることに気付き、受け止めることができるようにする。 話し合い活動を通して、多様な意見を出し合いながら合意形成をする経験を重ねられるようにする。 学習活動の中で異学年とかかわる機会をもつ。 たてわり班活動では、年度末にお別れ会を行い、活動を振り返ったり感謝の気持ちを伝え合ったりすることで、自己有用感につながりようとする。 人権週間において、すべての学年で体験的活動に取り組み、多様性や他者を思いやる心情を育てる。 家庭や地域との連携を図り、多くの人と関わることで、思いやりの心を育てる。 |

健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|--|
| 健やかな体 | ①縄跳びではめあてをもち、継続的に取り組むことで体力向上を図る。運動委員会の活動を充実させ、年間を通して様々な運動に親しめるようにする。②食育では、地域の農家の方とかかわる機会をもったり、食材に関する掲示物やクイズなどを作って掲示したりするなど、食材により興味をもてるようにする。 |
| 担当 | 研究部 |

健やかな体に関わる本校の状況

休み時間は、校庭でドッジボールや鬼ごっこで遊ぶ児童が多い。
 食教育の取り組みから、食への関心が高く、朝食の摂取率が高く、給食の残量も少ない。
 放課後の運動量は、スポーツクラブに参加している児童もいるが、休日は運動しないなど二極化が見られる。

今年度の目標

子どもが安心して豊かに学校生活を送れるように、健やかな体を育む機会を増やす。

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 運動委員会の活動を充実させ、中休みにフラフープ・竹馬の貸し出しをし、運動する機会を増やす。縄跳び集会を計画し、めあてに向かって取り組むことで、運動を通してクラスや学年、全校での一体感や達成感が得られるようにする。 食育を通して、作物の栽培や食文化、栄養に興味をもち、食生活を大切に考えることができるようにする。食育掲示板を通して、食に興味をもってもらい、関心を深めてもらう。また、6月の食育月間には、給食委員会の児童が「まごわやさしい」のポスターを作成し、各クラスに掲示をする。毎日のばくばくだよりに、「まごポイントクイズ」を作り、給食委員会の児童が放送する。 | <ul style="list-style-type: none"> 運動委員会委員会では、冬のスポーツイベントを実施し、楽しみながら体を動かす機会を設定する。 毎月19日の食育の日に、給食室での動画を流し、給食への関心を深め、食べる意欲を向上させる。1月の給食週間では、給食集会を開き、給食委員会の児童が栄養バランスについての劇を行う。また、調理員へメッセージを書き、感謝して食べることの大切さを養う。 地域の農家さんに畑を借りて作物を栽培・収穫し、収穫した作物を給食として提供する。 |